

福岡県高等学校書道教育研究部会

第71回

県研究授業

会場 福岡県立苅田工業高等学校
日時 令和5年12月6日(水)
9:30～16:00

目次

1 日程	・・・ 1頁
2 はじめに	・・・ 2頁
3 学校概要資料	・・・ 3頁
4 学習指導案・年間指導計画	・・・ 4頁～

1 日程

9:00～ 9:25 受 付

9:00～ 9:50 開会行事

(1)開会のことば

(2)会長挨拶

【福岡県高等学校書道教育研究部会 会長 田中 憲育(福岡県立稲築志耕館高等学校長)】

(3)県指導主事挨拶

【福岡県教育庁教育振興部高校教育課 高口 盛幸 指導主事】

(4)会場校挨拶

【福岡県立苅田工業高等学校 古谷 浩伸 校長】

(5)来賓紹介

(6)日程説明等

10:00～11:50 研究授業

13:00～16:00 研究協議会

(1)授業者自評

【福岡県立苅田工業高等学校 福元 隆寛 教諭】

(2)研究授業について質疑応答、研究協議

(3)県指導主事講評

【福岡県教育庁教育振興部高校教育課 高口 盛幸 指導主事】

16:00～ 閉会行事

(1)閉会のことば

(2)アンケート記入

2 はじめに

私は、平成 27 年より福岡県の芸術科書道の教諭として採用をいただき、来年度には 10 年目を迎えます。節目の年とはいえ正直なところ及ばないことばかりで、これまでの間、多くの先生方や生徒、保護者の方々に助けをもらいながら何とか今日まで教員生活を送らせていただきました。今回、「福岡県書道教育研究部会第 71 回研究授業」をさせていただくことを通して改めて初心に立ち返り、これからの教員人生をより謙虚に歩んでいけたらと思います。

さて、今回研究授業をさせていただくにあたり、「行書の創作～意図に基づいた表現～」を単元として設定し、「学習評価につながる指導及びワークシートの工夫と、主体的に学習に取り組む態度の評価」をテーマに準備を進めてきました。拙い授業ではございますが、御覧いただき多くの御意見、御指導をいただけたらと思います。

最後に、今回研究授業の開催にあたり、御尽力いただいたすべての先生方にこの場を借りて感謝申し上げます。

福岡県立苅田工業高等学校 教諭 福元 隆寛

3 学校概要資料



福岡県立
苅田工業高等学校

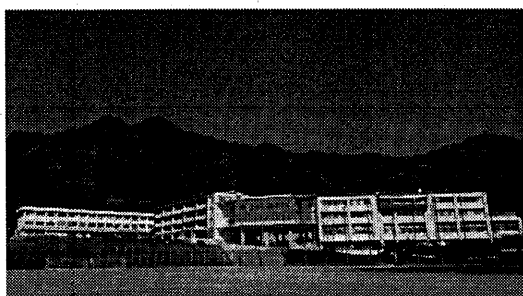
所在地 京都府苅田町大字集2569
〒800-0354
電話番号 093-436-0988
FAX番号 093-436-2572
ホームページ <http://kanda-tech.fku.ed.jp/>
交通機関 JR苅田駅又は小波瀬西工大前駅下
車ー徒歩約30分
西鉄バス近衛橋下車ー徒歩約15分
苅田町コミュニティーバス苅田工業高校下
車ー徒歩2分

1 在籍者数 (令和5年8月1日現在)

課程	学科	1年生		2年生		3年生		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女
全日制	機械科	57	3	73	1	74	2	204	6
	電気科	30	0	35	2	34	0	99	2
	情報技術科	32	5	31	8	29	10	92	23

2 学校概要

本校は、自然豊かな高城山の麓に所在し、今年度創立61周年を迎える工業高校です。「誠実・努力・規律」の校訓のもと、普通教育と工業専門教育をとおして基礎教養と技術・技能の習得と、基本的生活習慣を身に付けた21世紀の日本を担う「ものづくりのスペシャリスト」育成を目指しています。



校舎

3 教育課程

本校には、3つの専門学科があります。

【機械科】

先端技術を駆使したものづくりの技術はもとより、機械技術の基本である鋳造・鍛造・手仕上げなどを学習し、機械保全や旋盤など多くの資格を取得することができます。

【電気科】

電気の基礎から電気工事、モータ・発電機の原理、送電・配電、シーケンス制御や電子回路実習等をとおして、電気の働きや電気に関する技術を学習し、電気工事士などの資格を取得することができます。

【情報技術科】

電気・電子および情報技術の基礎、プログラミングやハードウェア技術、コンピュータ制御や情報通信など、コンピュータの利用技術を学習し、ネットワーク接続技術者などの資格を取得することができます。

4 学校行事・部活動

☆学校行事

4～6月（入学式、歓迎行事、体育大会、生徒総会、防災訓練）、7月（工場見学、進路学習）、8・9月（中学生体験入学）、10～12月（創立記念日、苅工祭、インターンシップ、クラスマッチ）、1月（修学旅行）、3月（卒業式）

☆部活動

体育系12部、文化系8部があります。全生徒の約80%が入部しており、いずれの部活動も活発に活動しています。昨年は情報科学部が世界大会に、陸上部、レスリング部、機械工作部が全国大会に出場しました。

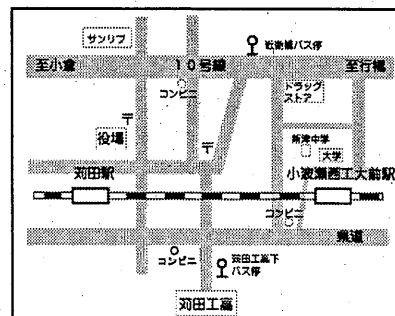
5 進路情報

生徒の約80%が就職希望です。そのうち県内企業への就職が約60%です。就職決定率は毎年100%を達成しています。進学希望者は約15%で、内訳は大学・短大への進学が約30%、専門学校への進学が約70%です。

6 学校からのメッセージ

資格取得や「ものづくり」をとおして、地域や産業界から求められる「人財」の育成に、学校をあげて取り組んでいます。『新しい時代を創造する「チーム苅工」』のスローガンのもと、本校で充実した高校生活を送りませんか。

【地図】



4 学習指導案・年間指導計画

「書道Ⅰ学習指導案」

はじめに

福岡県立荊田工業高等学校 教諭 福元 隆寛

日 時 令和5年12月6日(水) 2・3限

対 象 機械科1年A組 書道選択者15名

科 目 書道Ⅰ

【単元設定の理由】

これまで、楷書の学習として、九成宮醴泉銘、孔子廟堂碑、建中告身帖、始平公造像記で字形の要素に加え線質(直筆・側筆、露鋒・蔵鋒)を学び、行書の学習として、蘭亭序(行書の特徴を中心とし、特に「点画の連続」を重点的に学習)、争坐位文稿(懐の広さ、線の太細、遅速・緩急)の順で、臨書を中心に学習を進めてきた。そこで、本単元では、これまでの学習を生かしながら「風」字の行書創作の作品制作に取り組ませる。

「風」は日常に溢れているものであるが、人が感じ取る「風」は季節(気温)や風速、場所等によって様々である。そのため、生徒が表現したい「風」についてイメージを膨らませやすいと考え、そのイメージを基に、表現の意図を設定し、それに基づいて「風」字を構想し、意図に基づく構想の実現のためによりよく表現を工夫していくことは、書の表現を通して新たなことを創造していく態度や、探究していくことの意義の理解にも繋がると考える。さらに、鑑賞の活動を通して、表現効果や風趣との関わり、同じ文字を使用しても表現の工夫により多様な表現があるということを理解することで、今後自ら言葉を選定し、意図に基づいて構想し、意欲的な自己表現の展開に繋げることができると考え、本単元を設定した。

【学習指導要領との関連】

・書道Ⅰの目標

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

・A表現 (2) 漢字の書 ア

(ア) 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成

(イ) 意図に基づいた表現

・A表現 (2) 漢字の書 イ

(ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり

(イ) 書体や書風と用筆・運筆との関わり

・A表現 (2) 漢字の書 ウ

(ア) 古典に基づく基本的な用筆・運筆

(イ) 古典の線質、字形や構成を生かした表現

・B鑑賞 (1) 鑑賞 ア

(ア) 作品の価値とその根拠

(イ) 生活や社会における書の効用

・B鑑賞 (1) 鑑賞 イ

(ア) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり

以上を踏まえ、行書の学習を生かしながら意図に基づいて構想するための視点や方法について理解させ、表現と鑑賞に関する資質・能力を育成することを目指す。

【育てたい資質・能力】

本校は、工業高校であり、「地域と協働し、地域社会の未来を牽引できる工業人」を育成する学校である。スクールポリシーとして、生徒に「新たなことを創造し、探究する力」、「規範意識と自らの行動を律する力」を育成することを示している。特に「新たなことを創造し、探究する力」については、芸術科書道の授業において、他者との協働も図りながら生徒が自ら課題を発見し、克服のための手立てを考え、新たなものを創造することに喜びを感じながら、活動とその過程での実践的な体験を通して、本校が育成を目指す生徒像も踏まえ、「書道Ⅰ」における資質・能力を育てていきたい。

1 単元名 「行書の創作～意図に基づいた表現～」(「漢字の書」単元④)

2 内容のまとめ

- ・「A表現」(2) 漢字の書 及び〔共通事項〕(1)
- ・「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

3 芸術の目標と評価の観点及びその趣旨

	(1)	(2)	(3)
目標	芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

(高等学校学習指導要領 P. 141)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

(改善等通知 別紙5 P. 3, 4)

4 書道Ⅰの目標と評価の観点及びその趣旨

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(高等学校学習指導要領 P. 157)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	- 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 - 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

5 内容のまとまりにおける単元構成

「A表現」(2) 漢字の書 及び 「共通事項」(1) 総時間数30時間

単元①：楷書の学習 〔九成宮醴泉銘、孔子廟堂碑、建中告身帖、始平公造像記〕	全8時間
単元②：篆刻の学習	全8時間
単元③：行書の学習 〔蘭亭序、争坐位稿〕	全8時間
単元④：行書の創作～意図に基づいた表現～	全6時間【本単元】

6 単元の目標

(1) 「知識及び技能」

○知識

- ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりと、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。(知表)
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。(知鑑)

○技能

- ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能と、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付ける。

(2) 「思考力、判断力、表現力等」

- ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成と、意図に基づいた表現について構想し工夫する。(思表)
- ・作品の価値とその根拠と、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。(思鑑)

(3) 「学びに向かう力、人間性等」

- ・自身の表現の意図に基づいた創作の学習活動に、自らの学習を調整しながら粘り強く、主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(態表)
- ・鑑賞の学習活動に、自らの学習を調整しながら粘り強く、主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(態鑑)

7 内容のまとめりと評価規準

「A表現」(2)漢字の書 及び 「共通事項」(1)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〔共通事項〕 ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。	・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 ・意図に基づいた表現について構想し工夫している。	主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。
・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 ・古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。		

「B鑑賞」(1)鑑賞 及び 「共通事項」(1)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〔共通事項〕 ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。	・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ・漢字の書体の変遷、仮名の成立等について理解している。 ・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。		

8 単元の評価規準

(1) 「知識・技能」

○知識

- ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりと、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。(知表)
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果と風趣との関わりについて理解している。(知鑑)

○技能

- ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能と、線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。

(2) 「思考・判断・表現」

- ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成と、意図に基づいた表現について構想し工夫している。(思表)
- ・作品の価値とその根拠と、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。(思鑑)

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」

- ・自身の表現の意図に基づいた創作の学習活動に、自らの学習を調整しながら粘り強く、主体的に取り組もうとしている。(態表)
- ・鑑賞の学習活動に、自らの学習を調整しながら粘り強く、主体的に取り組もうとしている。(態鑑)

9 指導と評価の計画 (概要)

・年間授業時数・・・ 70時間 ・「漢字の書」・・・ 30時間 ・本単元の配当時数・・・ 6時間

(1) 指導と評価の計画 (概要)

単 元	時 間	学 習 活 動	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
			知 表	知 鑑	技	思 表	思 鑑	態 表	態 鑑
単 元 ④	第1次 (2時間)	「風」字の表現の意図							
		構 想 ・ 工 夫 ①							
		作 品 制 作 ①			↓				
		構想・工夫の見直し①	◎						
		作 品 制 作 ②	▽	▽	↓	▽	▽	▽	▽
	第2次 (2時間)	◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価	◎						
		構想・工夫の見直し②							
		相互鑑賞・意見交換①							
		構想・工夫の見直し③				◎			
		中 間 自 己 評 価	▽	▽	◎	▽	▽	◎	◎
	第3次 (2時間)	◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価			◎	◎		◎	◎
		構想・工夫の見直し④							
		相互鑑賞・意見交換②							
		構想・工夫の見直し⑤	●			●			
		作品制作④ (清書)			●				
		最 終 相 互 鑑 賞		●			●		
		単元全体の自己評価	▽	▽		▽	▽	●	●
		◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価	●	●	●	●	●	●	●

(2) 本単元における観点別学習状況の評価方法

評価の観点と単元の評価規準			○「おおむね満足できる」状況（B）の例 ◎「十分満足できる」状況（A）の例 ◆「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て
知識・技能	知表	・用具・用材の特徴と表現効果との関わりと、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。	○表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし、用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、おおむね理解している。 ◎表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし、用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、構想・工夫したり言語化したりする活動を通して実感的に理解している。 ◆用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、自身の構想・工夫の経緯やこれまで学習したことを振り返らせ、理解できるよう支援する。
	知鑑	・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。	○表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし、書を構成する要素と表現性、表現効果や風趣との関わりについて、おおむね理解している。 ◎表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし、書を構成する要素と表現性、表現効果や風趣との関わりについて、相互鑑賞・意見交換したり、言語化したりする活動を通して実感的に理解している。 ◆書を構成する要素と表現性、表現効果や風趣との関わりについて、学習活動を振り返らせたり、具体例を示したりするなどして理解できるよう支援する。
	技能	・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能と、線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。	○古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、書を構成する要素等を生かして自身の表現の意図に基づいて表現するための技能をおおむね身に付け、作品に表している。 ◎古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、書を構成する要素等を生かして自身の表現の意図に基づいて表現するための技能を身に付け、作品に表し、相互鑑賞・意見交換等での他者の意見を活用してより効果的な表現を工夫しながら、技能を更に高めている。 ◆これまでの行書の学習活動や構想を振り返らせたり、効果的な表現の具体例を示したりすることで、自身の表現の意図、構想と関連付けて実感的に捉えて表すことができるように支援する。
思考・判断・表現	思表	・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成と、意図に基づいた表現について構想し工夫している。	○古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成と、意図に基づいた表現について自身の表現の意図に基づいて構想し、表現を工夫するとともに、おおむね自身の考えを言語化している。 ◎古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成と、意図に基づいた表現について自身の表現の意図に基づいて構想し、表現を工夫するとともに、相互鑑賞・意見交換での他者の意見を活用しながら適切に自身の考えを言語化している。 ◆古典の鑑賞で得られた知識を振り返らせたり、相互鑑賞・意見交換での他者の意見を確認させたりしながら、構想・工夫とその見直し、再構築に取り組めるよう支援する。
	思鑑	・作品の価値とその根拠と、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	○それぞれが制作した作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉え、自身の考えをおおむね言語化している。 ◎それぞれが制作した作品の価値とその根拠について、これまで得られた知識や経験と関わらせて考え、書のよさや美しさを味わって捉え、自らの考えを具体的に言語化している。 ◆意見交換での他者の感じ方や捉え方、考え方を参考にさせたり、これまで得られた知識や経験を振り返らせたりすること

			で、それぞれが制作した作品の価値とその根拠に気づき、書のよさや美しさを捉え、自身の考えを言語化できるよう支援する。
主体的に学習に取り組む態度	態表	・自身の表現の意図に基づいた創作の学習活動に、自らの学習を調整しながら粘り強く、主体的に取り組もうとしている。	○自身の表現の意図に基づいた創作の学習活動に、主体的に粘り強く取り組もうとしている。 ◎自身の表現の意図に基づいた創作の学習活動に、計画的に自らの学習を調整しながら主体的に粘り強く取り組もうとしている。 ◆自身の学習活動を振り返らせ、得られた知識と技能を生かしながら、自身の表現の意図と構想の実現のために、既習の古典に基づく基本的な用筆・運筆を用いて表現を工夫して表したいと思えるように支援する。
	態鑑	・鑑賞の学習活動に、自らの学習を調整しながら粘り強く、主体的に取り組もうとしている。	○鑑賞の学習活動に、書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、主体的に粘り強く取り組もうとしている。 ◎鑑賞の学習活動に、書のよさや美しさを感じ、自らの学習を調整しながら、作品や書の意味や価値について考えながら、主体的に粘り強く取り組むとともに、広い視野から書を捉えて考えようとしている。 ◆学習した表現効果、自身の学習活動、相互鑑賞・意見交換での他者との感じ方や捉え方、考え方を振り返らせ、参考にさせることで、主体的に鑑賞の学習活動に臨みたいと思えるよう支援する。

(3) 観点ごとの実現状況等を見取る（見取ることができる）方法（評価対象と学習活動）

ア「知識・技能」

(ア)「知識」

【知表】・・・（評価対象）ワークシート、ワークシート（ICT）
（学習活動）「構想・工夫」「構想・工夫の見直し」
「相互鑑賞・意見交換」「最終相互鑑賞」「単元全体の自己評価」

【知鑑】・・・（評価対象）ワークシート、ワークシート（ICT）
（学習活動）「相互鑑賞・意見交換」「最終相互鑑賞」「単元全体の自己評価」

(イ)「技能」

【技】・・・（評価対象）作品
（学習活動）「作品制作」

イ「思考・判断・表現」

【思表】・・・（評価対象）ワークシート
（学習活動）「構想・工夫」「構想・工夫の見直し」「単元全体の自己評価」

【思鑑】・・・（評価対象）ワークシート（ICT）
（学習活動）「相互鑑賞・意見交換」「最終相互鑑賞」「単元全体の自己評価」

ウ「主体的に学習に取り組む態度」

【態表】・・・（評価対象）ワークシート、活動の様子（作品制作における取組状況）
（学習活動）「作品制作」「構想・工夫の見直し」「単元全体の自己評価」

【態鑑】・・・（評価対象）ワークシート、ワークシート（ICT）
活動の様子（意見交換における発言、鑑賞活動における取組状況）
（学習活動）「相互鑑賞・意見交換」「構想・工夫の見直し」「最終相互鑑賞」
「単元全体の自己評価」

(4) 本時における学習過程と評価の具体

単元④「行書の創作～意図に基づいた表現～」(計6時間)の学習計画

【本時はその第2次(2・3時間目)】※今回は計6時間を示した。

	活動の流れ	時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点	評価の方法 ◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価 「観」活動の様子 「ワ」ワークシート 「作」作品					
					知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
					知表	知鑑	技	思表	思鑑	態表 態鑑
第1次	導入	5分	○既習事項の確認と本単元の見通し ・蘭亭序、争坐位文稿の各古典の表現効果(イメージ)とその根拠となる線質、字形、構成について捉えた内容、及び蘭亭序の「風」字について振り返る。 ・本単元の流れを確認する。	・前時までの作品やワークシートを振り返らせ、古典の表現効果(イメージ)とその根拠となる線質、字形、構成との関わりについて確認させる。 ・本単元の流れについて、パワーポイントで示しながら確認させ、生徒が見通しを立てて授業に臨むことができるように支援する。(ICTの活用)						
		15分	○「風」字の表現の意図 ・自身の表現したい「風」を思い描き、表現の意図を既習の知識・観点を活用し、適切な言葉で表す。	・パワーポイントで風速や季節(気温)、場所等の要素で思い描いた「風」の例を示すことで、生徒が表現の意図を既習の知識・観点を活用し、適切な言葉で表すことができるように支援する。						
		25分	○構想・工夫 ・書を構成する要素(線質、字形、構成)について既習の知識・観点を改めて確認するとともに、新たな観点について理解する。 ・「風」字について自身の表現の意図に基づいて書を構成する要	・書を構成する要素(線質、字形、構成)についてこれまでの学習で身に付けた知識・観点を振り返るとともに、新たな知識・観点である墨色について生徒が理解できるように、パワーポイントで例を示しながら支援する。(ICTの活用) ・書を構成する要素がどのような印象の違いを生むのかをパワーポイ						

			素から考え、構想として硬筆で草稿を表す。	ントを用いて生徒に例を示すことで、自身の表現の意図に基づいて書を構成する要素から考えさせ、構想として草稿を作成させることに繋がるように支援する。(ICTの活用)						
	15分		○作品制作① ・「“風”字」について、自身の表現の意図に基づく構想の実現のために書を構成する要素に基づいて表現を工夫して、毛筆で半紙に表す。	・机間指導による個別のアドバイスや全体への意識喚起を促すアドバイスをするなどして、生徒が構想・工夫で書を構成する要素から考えた構想(草稿)に基づいて、自身の意図に基づく構想の実現に向けた作品制作に取り組めるように支援する。						
	10分		○構想・工夫の見直し① ・自身の表現の意図に基づく構想の実現に向け、書を構成する要素、構想(草稿)を再度確認し、計画を見直し、必要な改善点をワークシートに記入する。	・「“風”字」の表現の意図を再度確認させた後、書を構成する要素、構想・工夫で作成した構想(草稿)と作品制作①で表した作品を比較させることで、生徒が書を構成する要素に基づいて計画を見直し、改善点を探し、記入できるように支援する。	ワ ◎					
	10分		○作品制作② ・構想・工夫の見直し①を踏まえ、「“風”字」について、自身の表現の意図に基づく構想の実現のために、書を構成する要素に基づいて表現を工夫して半紙に表す。	・構想・工夫の見直し①で記録した内容を適宜確認するように促したり、机間指導を行い、個別に構想・工夫の見直し①を確認しながらアドバイスをしたりするなどして、自身の意図に基づく構想の実現に向けて制作に取り組めるように支援する。						

まとめ	5分	○本時のまとめ 作品制作①②で表した作品をタブレットで撮影し、デジタル教材に貼り付けた後、作品やワークシートを確認しながら本時の学習を振り返る。	本時のまとめとして、制作した作品制作①②で表した作品を貼り付けさせた後、本時の学習を振り返らせることで、本時の学習で習得した知識や技能、学習の中で働かせ広げた感じ方や捉え方、考え方についての自身の学習での取り組みを実感させるとともに、今後の学習にどのように生かしていくかを考えさせ、次回の学習に繋げる。					
		◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価		◎				

【評価の方法の具体】

知表◎：「書を構成する要素」のそれぞれの要素が自身の表現の意図の実現のために、どのように関わるかを捉え、構想・工夫したり適切な用語を用いながら言語化したりすることで、理解している状況を、ワークシートの構想・工夫の見直し①の記述内容から見取り、ワークシートにアドバイスを記入、次時で返却し、指導に生かす。

第2次	導入	5分	○前時の振り返り 作品例（前時に作成した作品）を何点か提示したものと、ワークシートやパワーポイントで自身の表現の意図や書を構成する要素について確認しながら前時の活動について振り返る。	前時で作成した生徒の作品を例として提示しながら、前時の学習を振り返らせ、習得した知識や技能、学習の中で働かせ、広げた見方・考え方と、自身の表現に基づく構想の実現とがどのように関わっているかを考えさせ、実感的に理解することを促すことで、本時の活動に繋がられるように支援する。（ICTの活用）						
			○構想・工夫の見直し② - 用筆・運筆から生み出される書の表現性について、「変化」「律動」「性情」から理解する。 - 書を構成する要素を踏まえて、作品制作②で表した作品について表現性（変化、律動、性情）から考え、必要な改善点をワークシートに記入する。	表現性として「変化」「律動」「性情」についてパワーポイントで見方・考え方の例を示しながら理解を促すことで、生徒が自身の表現の意図を踏まえ、作品制作②で表した作品について「変化」「律動」「性情」の表現性の観点から改善点を自ら見つけ、言語化できるように支援する。（ICTの活用）						

第3次	導入	5分	○前時の振り返り ・提示された作品例（前時に作成した作品）を鑑賞し、自身の表現の意図や書を構成する要素、表現性について再度確認しながら前時の	・前時で作成した生徒の作品を例として提示しながら、前時の学習を振り返らせ、習得した知識や技能、学習の中で働かせ、広げた見					
-----	----	----	---	--	--	--	--	--	--

		活動について振り返る。	方・考え方と、自身の表現に基づく構想の実現とがどのように関わっているかを考えさせ、実感的に理解することを促すことで、本時の活動に繋げられるように支援する。 (ICTの活用)						
展開	15分	○構想・工夫の見直し④ ・これまでの学習過程を踏まえて、意図に応じた表現ができているか、表現効果（書を構成する要素に基づいて工夫してきた表現における変化等の造形的な工夫が、表現の意図に対して調和して表せているか、自身の意図した「風」の意味やイメージと自身が工夫してきた表現とが調和しているか）と風趣を考え、改善点についてワークシートに記入する。	・表現効果（書を構成する要素に基づいて工夫してきた表現における変化等の造形的な工夫が、表現の意図に対して調和して表せているか、自身の意図した「風」の意味やイメージと自身が工夫してきた表現とが調和しているか）と風趣についてパワーポイントで理解を促し、作品制作③で表した作品や自身の表現の意図、書を構成する要素や表現性から考えてきた構想、相互鑑賞・意見交換で得られた他者の見方・考え方を振り返らせることで、意図に応じた表現ができているか、表現効果（造形性に基づく調和、言葉と表現の調和）について考え、改善点を具体的に記入できるように支援する。						
	10分	○相互鑑賞・意見交換② ・表現の意図、構想・工夫、構想・工夫の見直し④で記入した記述内容と作品制作③で表した作品の画像をタブレットで一斉提示し共有した後、指定された2名の作品について相互鑑賞・意見交換を行い、他者の表現の意図に基づく構想の実現に向けた取り組みの現状や、その実現に向けたアドバイスを、感じ方や捉え方、考え方を働かせて捉え、ワークシート（ICT）に記入する。	・書を構成する要素や表現性、表現効果・風趣について再度確認させた後、他者の構想・工夫の見直し④の記述内容や作品制作①～③で表した作品の変容を比較しながら、相互鑑賞・意見交換をさせることで、他者の表現の意図に基づく構想の実現に向けたアドバイスを、感じ方や捉え方、考え方を働かせて捉えられるように支援する。（ICTの活用）						

	10分	○構想・工夫の見直し⑤ ・相互鑑賞・意見交換②を通して広げた感じ方や捉え方、考え方を働かせて、書を構成する要素、表現性、表現効果・風趣の観点で、自身の表現の意図に基づく構想の実現のための表現の工夫を再度見直し、必要な改善点と、既得の知識を根拠としながら、作品制作④（清書）に向けて、具体的な手立てを言語化し、ワークシートに記入する。	・相互鑑賞・意見交換②で交流させた他者の感じ方や捉え方、考え方と、構想・表現の工夫の見直し④における自身の感じ方や捉え方、考え方を比較し、分析的に捉えさせるとともに、書を構成する要素や表現性、表現効果・風趣との関わりについて実感的に理解できるように支援するとともに、作品制作④で自身の表現の意図に基づく構想の実現に向けた手立てを考え、具体的に言語化できるよう支援する。（ICTの活用）	ワ ●		ワ ●			
	25分	○作品制作④（清書） ・前時の作品制作③の作品についてワークシートに記入した教員のアドバイスや相互鑑賞・意見交換②で出た意見の内容、構想・工夫の見直し⑤で記入した改善点や克服に向けた手立てを確認しながら、「“風”字」について、自身の表現の意図に基づく構想の実現のために表現を工夫して半紙に表す。	・前時の作品制作③の作品についてワークシートに記入した教員のアドバイスや相互鑑賞・意見交換②で出た意見の内容、構想・工夫の見直し⑤で記入した改善点や克服に向けた手立てを確認することを促したり、机間指導で個別に前時の作品制作③の作品についてワークシートに記入した教員のアドバイスの補足や構想・工夫の見直し⑤の記述内容を踏まえたアドバイスをしたりするなどして、自身の意図に基づく構想の実現に向けた制作に取り組めるように支援する。			作 ●			
	10分	○最終相互鑑賞 ・作品制作④で表した作品をタブレットで共有し、他者の構想・工夫の見直しの過程や作品の変容を比較しながら、相互鑑賞を行い、それぞれの表現の意図、表現の工夫、書の高さや美しさ、作品の意味や価値について、感じ方や捉え方、考え方を働かせて捉えるとともに、その根拠につ	・書を構成する要素や表現性、表現効果・風趣について再度確認させた後、他者の構想・工夫の見直しや作品の変容を比較しながら、相互鑑賞をさせることで、それぞれの表現の意図、表現の工夫、書の高さや美しさ、作品の意味や価値について、感じ方や捉え方、考え方を働かせて捉え	I ●		I ●			

		いて、既得の知識を生かしながら考え、ワークシート（ICT）に記入する。	させるとともに、その根拠についても既得の知識を生かしながら考えられるように支援する。（ICTの活用）							
まとめ	10分	○単元全体の自己評価 ・「構想・工夫」や「作品制作」等、自身の表現の意図の実現のために取り組んだ表現の学習活動を振り返り、成果や改善点、疑問点等を踏まえて、今後の学習に向けて見通しを立て、ワークシートに記入する。 ・「相互鑑賞・意見交換」や「最終相互鑑賞」の鑑賞の学習活動の過程において、他者の作品を鑑賞してどのようなことを感じたり思ったり、考えたりしたかを振り返りながら、学んだことを今後の生活や社会の中でどのように生かすことができるかを考え、記入する。	・単元の学習を作品やワークシート、ICT成果物を通して振り返らせ、本単元で行った表現と鑑賞の活動の過程と成果や改善点、疑問点を再確認させ、表現の活動や鑑賞の活動を通して感じた喜びや難しさを実感させることで、今回の学習における経験を今後の学習活動や生活、社会の中で生かしていきたいと主体的に考えることができるように支援する。						ワ	ワ
◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価				●	●	●	●	●	●	●
【評価の方法の具体】										
知表●：既得の知識・観点、併せて学習してきた〔共通事項〕の内容を活用しながら、相互鑑賞・意見交換で得た他者の感じ方や捉え方、考え方を踏まえて表現効果を考え、構想・工夫を見直し、適切な言葉を用いて再構築している状況と、資質・能力を身に付けている実現状況を、構想・工夫の見直し⑤の記述内容から見取り、記録に残す。										
知鑑●：書を構成する要素と表現性、表現効果や風趣との関わりについて考える中で、既得の知識・観点、併せて学習してきた〔共通事項〕の内容を活用している状況と、資質・能力を身に付けている実現状況を、最終相互鑑賞の記述から見取り、記録に残す。										
技●：作品と相互鑑賞・意見交換や構想・工夫を見直しとを比較しながら、自身の表現の意図に基づく構想の実現に向けて、これまで習得した技能を生かしながら表現を工夫し、表している状況と、資質・能力を身に付けている実現状況を作品から見取り、記録に残す。										
思表●：これまでの「構想・工夫」や「相互鑑賞・意見交換」を生かして、更に構想・工夫を見直し、再構築している状況と、資質・能力を身に付けている実現状況を、構想・工夫の見直しの記述内容から見取り、記録に残す。										
思鑑●：それぞれが制作した作品のよさや美しさを味わって捉え、その根拠について、これまで得られた知識や経験を関わらせて考え、自らの考えを具体的に言語化している状況を最終相互鑑賞の記述内容から見取り、記録に残す。										
態表●：自身の表現の意図に基づいた構想の実現に向けた創作の学習活動を振り返り、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組んでいる状況と、成果や改善点を踏まえて、次時以降の学習への見通しに繋がられている状況を、単元全体の自己評価の記述から見取り、記録に残す。										
態鑑●：鑑賞の学習活動を振り返り、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組んでいる状況と、鑑賞の学習活動を通して得た成果を、生活や社会の中で生かすことを主体的に考えようとしている状況を、単元全体の自己評価の記述から見取り、記録に残す。										

10 年間指導計画

単元及び学習内容		配 当 時 間	観点別評価規準			評価の観点 及び評価方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	
1 鑑賞①	・書写と書道の違い ・書道の表現と鑑賞 ・用具用材の扱い方	2	【知・鑑】 ・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。	【思・鑑】 ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わい、捉えている。	【態・鑑】 ・主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	【知・鑑】 【思・鑑】 【態・鑑】 ・ワークシート ・観察
2 漢字の学習	①楷書古典の学習 ～楷書の書風と線質～ ・九成宮醴泉銘 ・孔子廟堂碑 ・建中告身帖 ・始平公造像記	8	【知・表】 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりと、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。	【思・表】 ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成と、意図に基づいた表現について構想し工夫している。	【態・表】 ・各古典の特徴に基づく臨書の表現活動や、自身の表現の意図に基づく創作の表現活動等、主体的に漢字の書の幅広い学習活動に取り組もうとしている。	【知・表】 【知・鑑】 【技能】 【思・表】 【思・鑑】 【態・表】 【態・鑑】 ・作品 ・ワークシート ・ICT成果物 ・観察
	②篆刻の学習 ～「刻す」ことによる立体的な表現～	8	【知・鑑】 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりと、中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷について理解している。	【思・鑑】 ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	【態・鑑】 ・各古典や臨書作品、創作作品について、それらのよさや美しさを感じ、その意味や価値について考えながら、主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	③行書古典の学習 ～行書の基本、書風・線質～ ・蘭亭序 ・争坐位文稿	8				
	④行書の創作 ～意図に基づいた表現～ ・自身の表現の意図に基づく構想の実現 ・書を構成する要素 ・表現性 ・表現効果、風趣	6	【技能】 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能や、古典の線質、字形、構成を生かし、構想したり工夫したりしたことを表現する技能を身に付けている。			
3 仮名の学習	①仮名の基本 ・仮名の成立 ・仮名の基本点画 ・いろは歌 ・連綿	4	【知・表】 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。	【思・表】 ・古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成と、意図に基づいた表現について構想し工夫している。	【態・表】 ・各古典の特徴に基づく臨書の表現活動や、自身の表現の意図に基づく創作の表現活動等、主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	【知・表】 【知・鑑】 【技能】 【思・表】 【思・鑑】 【態・表】 【態・鑑】 ・作品 ・ワークシート ・ICT成果物 ・観察
	②仮名の書風・線質・構成 ・蓬萊切 ・高野切第三種 ・寸松庵色紙	6	【知・鑑】 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりと、日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立等について理解している。	【思・鑑】 ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	【態・鑑】 ・各古典や臨書作品、創作作品について、それらのよさや美しさを感じ、その意味や価値について考えながら、主体的に鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。	
	③仮名の書の創作 ～意図に基づいた表現～ ・自身の表現の意図に基づく構想の実現 ・書を構成する要素 ・表現性 ・表現効果、風趣	6	【技能】 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能や、連綿と単体、線質や字形を生かした表現の技能を身に付けている。			

4 漢字仮名交じりの書の学習	①意図に基づいた表現 ・言葉の選定 ・自身の表現の意図に基づく構想の表現 ・書を構成する要素 ・表現性 ・表現効果	10	【知・表】 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりと、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【知・鑑】 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。	【思・表】 ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 【思・鑑】 ・制作された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさについて味わって捉えている。	【態・表】 ・主体的に自身の意図に基づく表現をする漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 【態・鑑】 ・書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	【知・表】 【知・鑑】 【技能】 【思・表】 【思・鑑】 【態・表】 【態・鑑】 ・作品 ・ワークシート ・ICT成果物 ・観察
	③生活と書 ～カレンダーに貼る作品～	10	【技能】 ・目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。			
5 鑑賞②	・名筆の鑑賞 ・書道Ⅰのまとめ	2	【知・鑑】 ・芸術科書道における表現の多様性について理解している。	【思・鑑】 ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わい、捉えている。	【態・鑑】 ・主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	【知・鑑】 【思・鑑】 【態・鑑】 ・ワークシート ・観察

11 参考資料・参考文献等

○学習指導案を作成するにあたり、引用したり参考にした資料等

- ・高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説芸術編
- ・「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）
- ・過年度の文化庁研修資料